

■活動方針

スポーツ・フォー・オールから“スポーツ・フォー・エブリワン”へ

著しい社会変化の中で、スポーツの重要性がますます高まっています。スポーツ・フォー・オールの先進国であるヨーロッパに倣い、わが国でも国の方針としてスポーツ・フォー・オール政策を推進することとなり、1988年に文部省体育局生涯スポーツ課が新しくできました。これを受けて、市民レベルのスポーツクラブの育成まで視野に入れたわが国唯一のスポーツ・フォー・オールの振興組織として、1991年、日本財団の支援のもと笹川スポーツ財団(SSF)が設立されました。以来、「誰でも・どこでも・いつまでも」スポーツに親しむことができるよう、スポーツ団体に対する助成事業をはじめ、スポーツの振興に関する調査研究事業、国際交流事業、各種スポーツイベントの開催など様々な事業を行って参りました。週一回スポーツをする人が国民の半数を超えた(「2000年SSFスポーツライフ調査」)のを機にSSFは、『スポーツ・フォー・エブリワン』を提唱することといたしました。これは、スポーツを行うたくさんの人々を大きな集合体として捉えるのではなく、より一層個人個人と関わって一人一人のスポーツライフの質を高めていくという私どもの決意の表われです。複雑化する社会が抱える様々な問題を乗り越えるには、個人が自立し、主体性をもって行動することが大切です。SSFは「いま、スポーツは何ができるか」を問い続け、明るく健康に満ちた社会づくりを目指します。スポーツ・フォー・エブリワンが広く浸透し、スポーツが各人の生活に深く溶け込んだ『新しい文化』として定着していくことを願っております。

笹川スポーツ財団 会長 小野 清子



SSF World Sports Photo Contest 2004 Gold Prize

■ 団体概要

| | |
|------|--|
| 名称 | 笹川スポーツ財団 (SSF) |
| 所在地 | 105-0001 東京都港区虎ノ門 1-15-16 Tel 03-3580-5965 Fax 03-3580-5968 Email info@ssf.or.jp |
| 基本財産 | 55億円 |
| 設立年月 | 1991年(平成3年)3月 |
| 目的 | スポーツ・フォー・エブリワンの推進 |
| 所管官庁 | 文部科学省(スポーツ・青少年局 生涯スポーツ課) |
| 予算 | 8.3億円(平成19年度) |
| 提携機関 | アメリカ大統領体カスポーツ審議会(PCPFS) 国際ヘルスプロモーション研究所(IIHP) |
| 加盟機関 | 国際トリム・フィットネス生涯スポーツ協議会(TAFISA) 日本トリム・フィットネス生涯スポーツ協議会(TAFISA-JAPAN) 国際スポーツ・フォー・オール連盟(FISpT) 国際スポーツ情報協会(IASI) アジアニア・スポーツ・フォー・オール協会(ASFAA) |



■ 役員

| | | |
|------|-------|---|
| 会長 | 小野 清子 | 前参議院議員 |
| 常務理事 | 藤本 和延 | 笹川スポーツ財団 |
| | 渡邊 一利 | 笹川スポーツ財団 |
| 理事 | 赤木 恭平 | 財団法人全日本ボウリング協会 会長 |
| | 雨宮 忠 | 独立行政法人日本スポーツ振興センター 理事長 |
| | 岡野俊一郎 | 国際オリンピック委員会 委員 |
| | 川淵 三郎 | 財団法人日本サッカー協会 キャプテン |
| | 木原光知子 | ケイ・アンド・エムインターナショナル株式会社 代表取締役 |
| | 小掛 照二 | 社団法人東京陸上競技協会 会長 |
| | 小峯 力 | 特定非営利活動法人日本ライフセービング協会 理事長 流通経済大学 助教授 |
| | 竹田 恆和 | 財団法人日本オリンピック委員会 会長 |
| | 玉利 齊 | 財団法人日本健康スポーツ連盟 理事長 |
| | 林 利博 | 財団法人日本水泳連盟 会長 |
| | 増田 明美 | スポーツジャーナリスト |
| | 三屋 裕子 | スポーツアドバイザー |
| | 三ツ谷洋子 | 株式会社スポーツ21エンタープライズ 代表取締役 |
| | 森 喜朗 | 財団法人日本体育協会 会長 |
| | 森田 文憲 | 財団法人日本海事科学振興財団 理事長 |
| 監事 | 船越 眞 | 財団法人競艇振興センター 常務理事 |
| | 三浦 雅生 | 弁護士 |
| | | 平成19年(2007年)4月現在 五十音順 |

事業概要

1. スポーツ団体の行う事業に対する助成 (SSFスポーツエイド)

青少年のスポーツ振興プログラム事業や、スポーツ団体の行う大会、教室・講習会、国際交流等の事業に対して資金援助し、スポーツの裾野を拡大します。

2. スポーツに関する国際交流事業の実施

国際的視野に基づいて、世界各国のスポーツ振興機関や関係者等と交流・情報交換を行い、海外情報を収集・整理し、国内関係者に提供するとともに、日本の現況を各種国際会議で発表・紹介します。

3. スポーツ情報の収集及び提供

スポーツ・フォー・エブリワンに関する情報を収集・整理し、インターネット等で提供する「スポーツ情報センター」の役割を担います。また、スポーツ白書の刊行等により、スポーツ・フォー・エブリワンの政策・提言に関する基礎資料を提供します。

4. スポーツイベント事業の実施

オープンウォータースイミングの開催やチャレンジデーの普及等、各種スポーツイベントを通じてスポーツに対する参加意欲を促進します。

5. スポーツの振興に関する調査研究

スポーツライフに関する国内調査を実施し、国民のスポーツ実施率等の客観データを広く国内外のスポーツ関係者に周知します。



SPORT FOR
every one
FOR ACTIVE SPORTING LIFE

事業紹介

● SSFスポーツエイド

SSFの基幹をなす事業です。近年では「スポーツ好きの子どもたちを育てよう」を合言葉に、青少年を対象とした通年で実施するスポーツプログラム事業や学校の休みの期間を利用して短期間で実施するスポーツキャンプ事業に重点を置き、スポーツの習慣化やスポーツ愛好者の拡大を図っています。

助成金額累計 (1991~2006) : 43 億円

助成事業数 : 約 7,000 事業

● オープンウォータースイミングの開催

マリンスポーツの楽しさや素晴らしさをより多くの人々に周知するために、マリンスポーツ団体及び地元関係者等と協力し、毎年盛夏に湘南でオープンウォータースイミング (OWS) を開催しています。OWSは2008年の北京五輪では水泳競技の正式種目となっています。

● チャレンジデーの普及

毎年5月の最終水曜日に15分以上続けてスポーツや運動を行った住民の参加率を、人口が同規模の市区町村で競い合うカナダ発祥の国際的な市民スポーツイベントです。SSFは日本のチャレンジデーをコーディネートするとともに、海外都市と対戦するインターナショナルチャレンジデーの普及と日本の窓口機関の役割を担っています。

● 東京マラソンへの特別支援(運営ボランティアのマネジメント)

3万人が都心の観光名所を駆け抜ける東京マラソンを特別支援し、大会を支えるボランティアの確保、養成に取組み、ホスピタリティ溢れる運営体制づくりに取り組んでおります。

東京マラソン2008は、2008年2月17日(日)に開催。

● スポーツライフに関する調査研究

わが国成人のスポーツに対する関心や、実施状況を把握するために隔年で全国調査を実施しています。特にスポーツ実施率の把握 (アクティブ・スポーツ人口[※]の推移) では、スポーツ・フォー・エブリワン先進諸国との国際比較を可能にしました。2001年から4年毎に10代を対象とした調査を実施し、SSFの諸活動の成果を確認する調査にもなっています。

※SSFでは、「週2回以上、運動時間1回30分間以上、運動強度『ややきつい』以上」の3条件を満たした人々を「アクティブ・スポーツ人口」としています。

● スポーツ白書の刊行

スポーツの発想の転換と行動を求める提言書として1996年にわが国で初めてスポーツ白書を刊行。以来、2001年、2006年と5年毎に刊行しています。国内外の豊富なデータに基づき、わが国のスポーツの現状を詳細に分析したスポーツ関係者必携の書です。

● 総合スポーツ情報サイトの運営

スポーツ・フォー・エブリワンの実現に向けた様々な情報を発信するウェブサイト (Sport for Everyone Network : sfen) を公開しています。国内外の最新スポーツ情報を提供し、スポーツに関わる全ての人々との相互コミュニケーションを図っています。

● 国際スポーツ機関との連携

国際会議において、当財団の調査結果などの事業成果や、わが国のスポーツの現状を報告します。また、スポーツ白書やスポーツライフ・データの制作に有益な資料やデータを集積するため、海外のスポーツ振興主要機関と情報交換を行います。

● ワールドゲームズ種目の普及

ワールドゲームズとは、オリンピック競技種目以外のスポーツの国際総合競技大会であり、その精神と競技種目を日本ワールドゲームズ協会 (JWGA) とともに国内に普及しています。SSFでは、2001年秋田大会の成功を機に「日本ワールドゲームズ大会」の定期開催を目指しています。



国内外の豊富なデータに基づいてわが国のスポーツの現状を詳細に分析
—
今後の方向性を示したスポーツ関係者必携の書

スポーツ白書

～スポーツの新たな価値の発見～

定価 2,940 円 (税込) A4判 247 頁
ISBN978-4-915944-39-0 2006年3月発行 【最新版】



日本人のスポーツライフの現状把握に
必見の最新データ —

スポーツライフ・データ 2006

～スポーツライフに関する調査報告書～

定価 2,100 円 (税込) A4判 182 頁
ISBN978-4-915944-40-6 2006年12月発行 【最新版】

スポーツを考えるウェブマガジン <http://www.sfen.jp/>

www.
sfen.jp
Sport for Everyone Network

幅広いテーマでスポーツに関する国内・海外の最新情報を提供しています。

✉ メール会員募集中! 【登録無料】 *ご登録はTOPページ [メール会員] 募集中から

